

○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

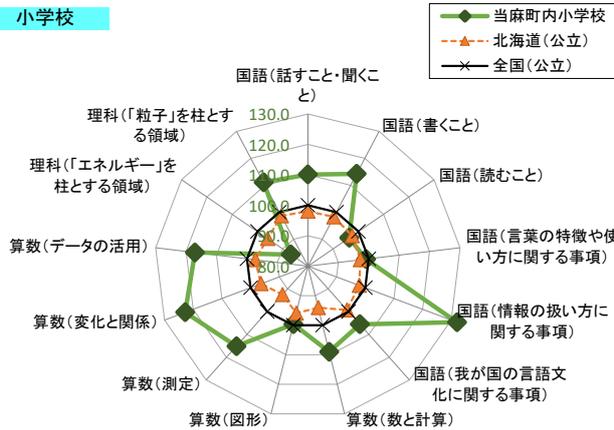
・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したのもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
 ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

【平均正答率・平均IRTスコア】

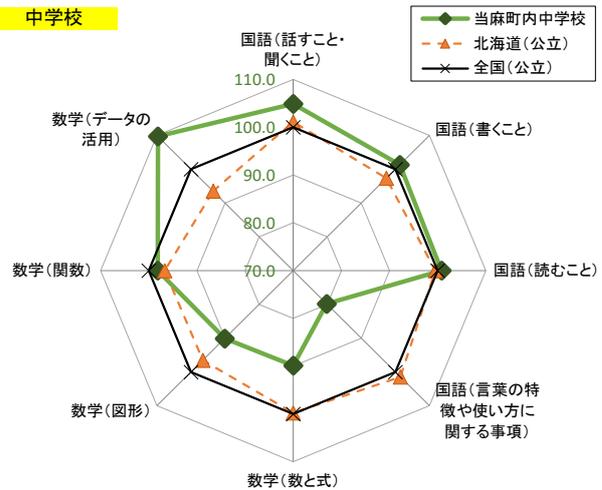
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
当麻町	71.4	63.8	64.1	54.3	46.7	558
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58	57.1	54.3	48.3	503

小学校



中学校

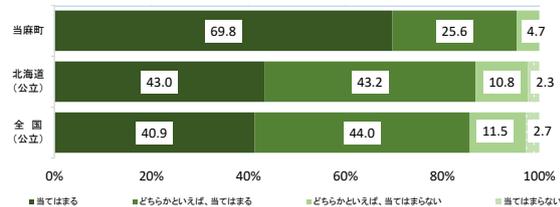


○ 質問調査の状況

小学校

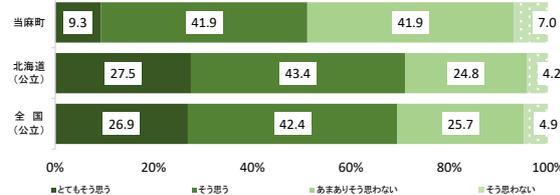
<児童質問>

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



<児童質問>

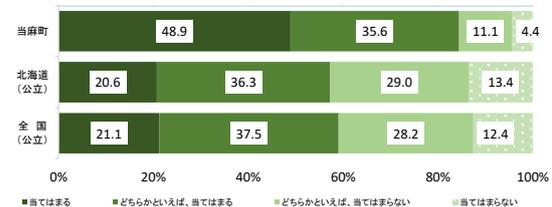
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができるとおもいますか



中学校

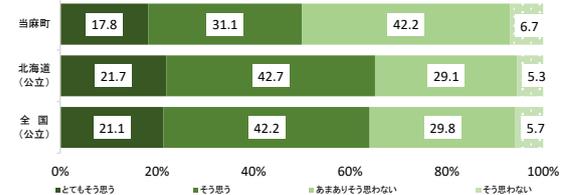
<生徒質問>

数学の授業で、どのように考えたかについて説明する活動をよく行っていますか



<生徒質問>

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができるとおもいますか



○ 調査結果の分析

小学校

教務部と研修部が連携して授業改善のポイントを共有したことにより、協働的な学びを意識した授業改善が進んだ。その結果、話し合い活動を通じて考えを深めたり新たな考えを得られると答えた児童の割合が全国・全道を上回り、各教科の平均正答率の向上にもつながったと考えられる。

課題解決に向けて、自ら考え主体的に取り組む姿勢に課題が見られた。今後は、ICTの一層効果的な活用について検証を重ねるとともに、中学校との連携を図りながら授業改善を進め、子どもの主体的な学びの実現を目指す。

中学校

加配教員を配置し、習熟度別授業で、生徒が主体となる授業に取り組んだことにより、数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回った。そのため、数学の「データの活用」の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

ICT機器を使って情報を整理することができると回答した生徒の割合が、全国及び全道を下回っている状況は、1、2年生のときに受けた授業で、ICT機器をほぼ毎日使用していた割合が、全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。

○ 今後の改善方策

・	小中一貫校としての教育課程の編成や研修の実施
・	学習支援員及び英会話講師の配置による児童生徒の学習状況に応じた指導の充実
・	ICT機器の効果的な活用方法について、校内研修を行い授業改善に向けた取り組みの推進